

## 第66歩

### 「中央公園が語り継ぐもの」

高松市の中心部にある中央公園が、大きく生まれ変わろうとしています。老朽化した施設等の更新を契機に、民間のカフェを組み込んで官民が連携して公園整備を行う「パークPFI」の手法を導入し、都市の真ん中に新しいにぎわいと魅力を生み出そうという取り組みです。去る8月末に着工し、約2年後の令和9年夏完成を目指しています。かつてこの場所には、高松中央球場がありました。高校野球の県予選や社会人野球の試合、また、プロ野球のオープン戦も行われていました。中央球場は野球王国香川の市民の誇りであり、都市の中心ににぎわいと熱気を集める象徴でありました。昭和の終わりごろ、野球場は役割を終えて公園へと姿を変えました。芝生広場では子どもたちが駆け回り、昼休みには会社員が弁当を広げ、週末にはイベントが開かれるなど、市民の憩いの場、交流の場として親しまれる場所となりました。以来、約40年が経過。現状は、施設の老朽化や樹木の肥大化、老木化が進んでいるほか、公園全体のバリアフリー化や防犯上の課題もあります。また、多様な利用者ニーズへの対応や、地域活性化に資する新たな魅力づくりも求められています。今回導入されるパークPFIは、この場所の歴史をさらに未来へと接続する仕組みでもあります。カフェを運営する民間事業者が魅力的な店舗や空間を提供することで、公園は単なる休憩の場所を超えて、観光客や若者がそこを目的に立ち寄り、時間を過ごしたくなる場所へと進化することになります。都市の魅力は、大規模な施設やイベントだけで決まるものではありません。日々の暮らしのなかにWell-Beingな心地良い場所があり、そこに人が集まり、時間を共有できることが、都市の価値の一部を形づくるのです。その意味で、中央公園の再生は、高松のシティプロモーションとも関連します。中央公園がリニューアルされ、過去と未来の時間軸をつなぐ舞台へとよみがえるとき、高松は「住みたい、訪れたい」と思わせる都市としての姿を一層鮮明にするに違いないと信じています。

